

# 狭山市入間川七夕まつり

8月4日(土) 11時~21時

5日(日) 11時~20時30分



## ☆安全を陰で支える

須田昌司さん(矢来の組み立て)



安全を一番に、矢来や竹飾りを準備します

入間川の七夕は、柱を立てて渡した丸太に飾りを吊す「矢来飾り」が特徴です。狭山独自の飾り方で、私の父が仲間と考えました。高校生で手伝いを始めてから、約50年。昔は矢来を組み立てる会社が数社ありましたが、今では私のところしかなくなりました。

まつりの2日間は、ロープの結び目が緩んでないか、全部の矢来を見回ります。事故は一度もなく、まつりに携わる一人として誇りに思っています。そして、伝統ある矢来を後輩たちに引き継いでいくのが私の役目と思ひ頑張っています。

## ☆地域と繋がる大切さ

西武文理大学(ボランティア) 7年前、授業担当の先生の勧めで学生が個人参加したのがきっかけです。それ以降、年を重ねるごとに参加者も増え、昨年は、2日間で143人が、クリーンステーション

ンやまつり本部の運営、車いす介助などに携わりました。



クリーンボランティアにも参加します

学生は、ボランティアをとおして人の役に立てる喜びと、人に喜んでもらえることを実感しています。赤いシャツで活動しています。見かけたら声を掛けてください。

## ☆まつりが元気の源に

特別養護老人ホームつじの園(矢来飾り)

手探りで始めた飾りの制作も8年目。まつり当日は、車いすでも会場に入れるので、自分たちが作った飾りを見ることを目標に、家族や職員と楽しみながら取り組んでいます。そして会場で飾りを見た時のうれしさが、生きがいにもなっています。

今年もアイデア満載の飾りを制作中です。ぜひ見に来てください。



昨年の飾りは、織姫賞に輝きました

狭山の夏の風物詩、「狭山市入間川七夕まつり」を8月4日(土)、5日(日)に開催します。今月は、七夕まつりに携わる人たちの思い、まつりの情報などをお知らせします。

毎年多くの来場者でにぎわう七夕まつり。その準備から開催までに携わる人もたくさんいます。七夕まつりに掛ける思いを皆さんに聞いてみました。

## ☆みんなの力で盛り上げたい

吉田早苗さん(入間川七夕まつり副実行委員長、竹飾り部会長) 七夕通りに面した商店で育った私は、物心が付いたときから七夕まつりに親しんできました。当時は、自分の家と向かいの家の2階にワイヤを張って、道路を半分ずつ使い飾りを吊して



飾りをあげるときが一番緊張します

たことを覚えていました。吊し方が変わったのは東京オリンピックが開催された昭和39年です。ある商店がベニヤ板でオリンピックの飾りを作ったところ、重くてワイヤだけでは吊すことができなくなりました。そこで考えられた方法が、道の両側に柱を立てて、その柱に2本の丸太を通し、飾りを吊す狭山市独自の「矢来飾り」です。こうして毎年開催してきたまつりの転換期は2度ありました。一度目は、平成3年に観光協会ができたときです。それまで入間川地区のまつりだった七夕が、市のまつりとして位置付けられ、狭山の夏の風物詩になったんです。そして二度目が、平成25年に「見る七夕から参加する七夕へ」というキャッチフレーズを決めたときです。小・中学生に短冊を書いてもら

い、その前年に完成した、狭山市駅西口の市民広場に飾りました。1万2千枚もの短冊が会場を彩る様子は、それはきれいなものです。私は、「サラサラ」と風にそよぐあの音が大好きです。まつりは、掃除をしてくれる人、車いすを押してくれる人など縁の下力持ちがいるから成り立つんです。だから、「七夕は儲け仕事ではない」というくらい心の意気でないといけないと思います。飾りを出しているお店などでは、寒い時期から花を折ったりして「うちはすごいぞ、隣には負けない」とい

う思いで飾りを作っています。飾りは当日まで内緒なので、お向かいをちよつと覗いたりすると「早苗ちゃん、見ないで」なんて言われたこともあります。私はいつも、七夕のことを考えているから、歩いていても、買い物に行っても、これいいな、面白いなっていう材料がすぐ目につきます。どこの商店もこだわりを持って飾りを作っています。気になる飾りがあったら、そのお店の人と話してみてください。まつりの楽しみ方が、きつと変わると思いますよ。



- ① 昭和23年の竹飾り
- ② 昭和39年に矢来を使った飾り付けが初めて行われました。このスタイルは現在まで受け継がれています
- ③ 平成26年から高さ約15メートルの巨大竹飾りが登場。来場者を出迎えます